

## (8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

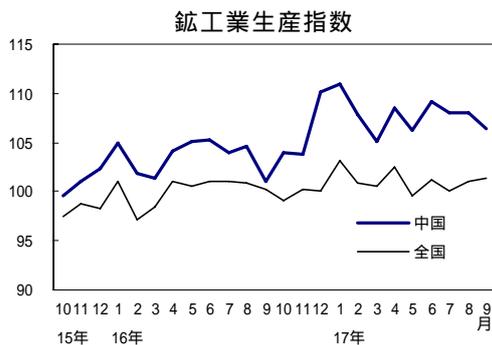
前回調査からの主要変更点

なし。

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は堅調に推移している。

化学は、自動車用ゴムやIT機器といった樹脂関連が好調であるなど、増加している。鉄鋼は、海外からの汎用品の影響を受けているものの、自動車関連をはじめとした高付加価値品が引き続き好調であり、おおむね横ばいで推移している。輸送機械は、造船において集中起工の終了による反動減が続いているが、自動車関連では新型車の生産などが引き続き好調であり、おおむね堅調に推移している。一般機械は、海外の石油会社向けのタービン、国内向けの印刷機械が好調であり、おおむね横ばいに推移している。電子部品・デバイスは、海外の生産工場向けの固定コンデンサなどが好調なため、増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成17年9月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

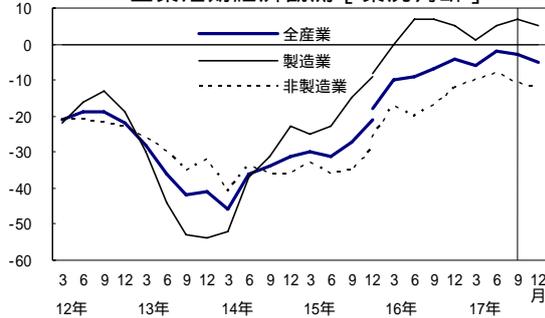
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.6	4.1	2.3	1.5	4.6
鉄鋼	12.1	0.2	3.0	6.0	0.4
輸送機械	12.0	6.4	8.0	7.3	68.0
一般機械	10.4	21.0	2.8	0.0	12.0
電子部品・デバイス	7.6	0.6	11.4	12.0	-
鋳工業	100.0	0.1	0.4	1.0	2.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

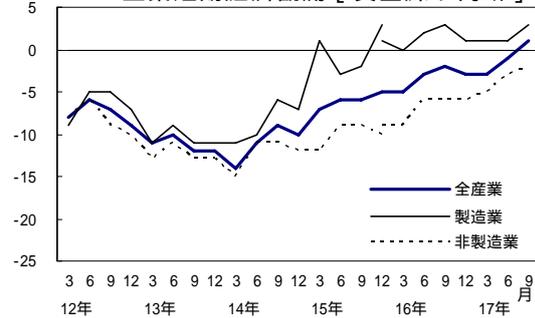
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「売上は、国内向けは回復しつつあり、海外向けは堅調に推移しているが、原材料の高騰に伴い、生産コストが悪化しており厳しい状況である(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

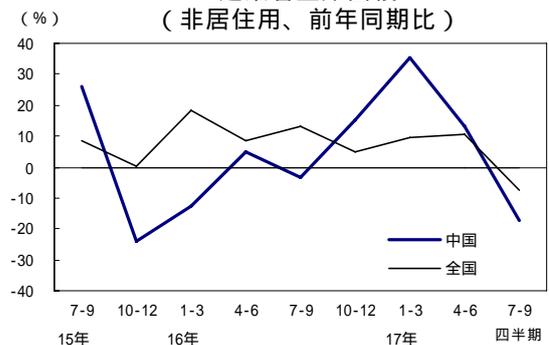
企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績	17年度計画
全産業	14.0	6.6( 4.3)
製造業	13.5	14.3( 7.0)
非製造業	14.7	5.3( 0.6)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

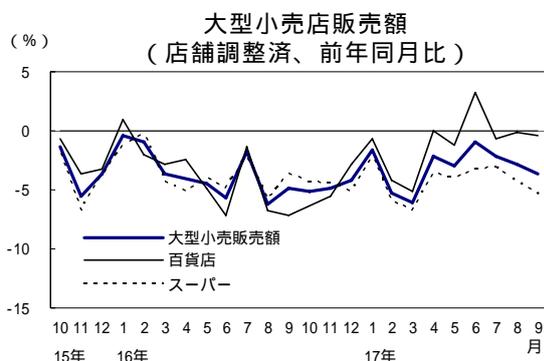
### (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、婦人衣料やブランド品、UV関連商品といった身の回り品が好調だったが、上旬の大雨により客数が減少したため、全体ではおおむね横ばいに推移した。8月は、婦人衣料や身の回り品が好調だったが、日曜日が昨年より1日少なかったことが影響し、全体ではおおむね横ばいに推移した。9月は化粧品などの雑貨が好調だったが、残暑が長引いた影響で秋物をはじめとする衣料品が伸び悩み、全体ではおおむね横ばいに推移した。なお、日本百貨店協会によると、中国地区の10月の売上高は、前年同月比で0.7%増となっている。スーパーは、7月に飲食料品が好調な動きをみせたものの、8、9月と野菜の単価安などが影響し、またその他の商品も総じて低調な動きであったため前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

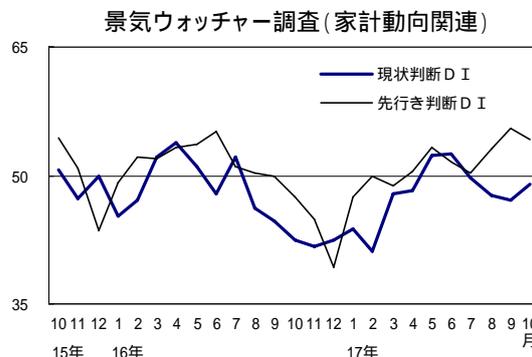
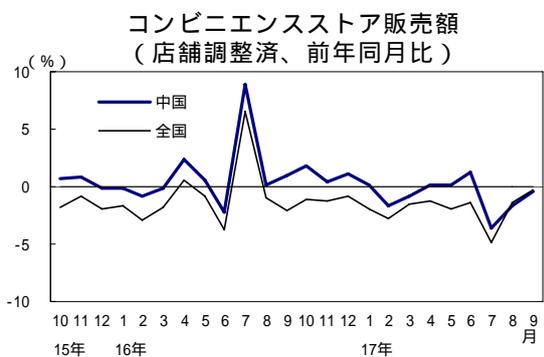
「月の後半からやっと寒さがやってきたが、灯油価格の高騰を実感し、またエコロジーに関心が集まっているようで消費への関心は低い(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比, %)			
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.7	4.2	2.0	2.8
百貨店	4.7	3.2	0.6	0.4
スーパー	4.7	4.9	3.6	4.2
コンビニ	1.1	0.8	0.5	1.9
景気ウォッチャー	42.2	44.3	51.0	48.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

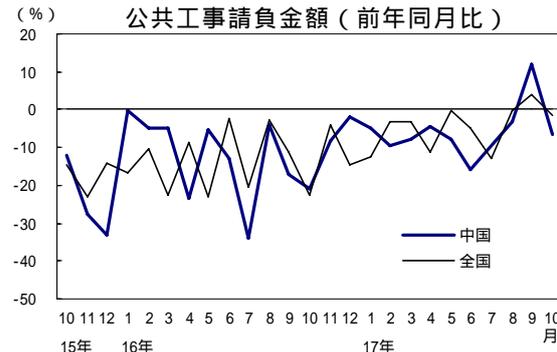
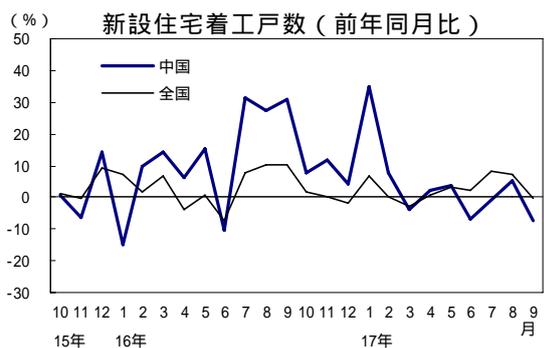
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



### (2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家、給与が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、全体では横ばいとなっている。

### (3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

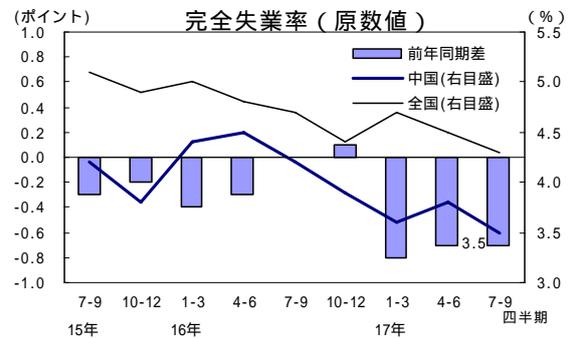
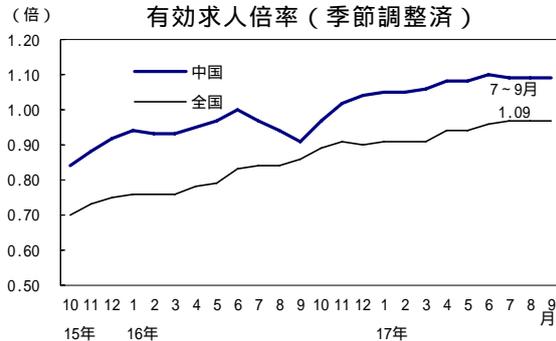


### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

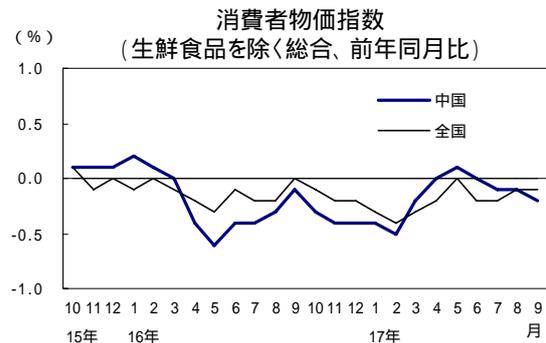
「求人はコールセンターや製造請負業からの大量求人や警備業からのまとまった募集などで、前月に引き続き増加傾向となった（職業安定所）」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

#### (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの負債総額は増加している。

#### (3) 消費者物価指数は下落している。

##### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月	17年10月
倒産件数	140	133	150	117	42
(前年比)	2.1	5.0	8.5	23.5	25.0
負債総額	322	418	377	423	142
(前年比)	2.7	25.1	9.7	4.9	13.7



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・業界の競合他社も決算、業績ともに順調なようで、苦しい中で頑張っている。その背景にはいくらか景気の後押しがある（繊維工業）。

<先行き>

- ・受注量は豊富であり、この傾向はこの先1年は続く。しかし懸念材料である原材料価格の高騰や原油価格上昇によるコストアップの影響が大きくなる可能性が高い（金属製品製造業）。

景気ウォッチャー調査（合計）

